

春ノ十二表

世のうさにひとかたならすうかれ行

こゝろさだめよ秋〈あき〉の夜〈よ〉の月

物思ひてなかむる此の月の色に

いかばかりなるあはれそふらん

をしなべてものを思はぬ人にさへ

心をつぐる秋のはつかせ

秋も又のかれてこの暮に出家さはりな

くとげさせ給へと三宝〈ほう〉にきせい申て

宿〈やど〉へまり行ほととし比たえかたく